

認定こども園 都南幼稚園
令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年度重点目標

- 遊びを中心とした生活の中で、豊かな心を育む体験ができる環境を整える。(幼稚園)
- 長時間過ごす子ども達が楽しく安心して過ごせるよう、幼稚園との情報共有を密にし、チーム保育を行う。(保育部 なかよしルーム)
- 1・2歳児の発達や個性を大事にしながら、一人ひとりが安心して自分らしく過ごせるようにする。(保育部 とことこ園)
- 幼稚園と家庭・地域が『共に子育てをする』という意識を共有しながら、親子が安心できる場を提供する。(子育て支援事業)
- 幼稚園のお誕生日をお祝いするという気持ちをもちながら、園児を中心とした創立50周年記念事業を行う。(その他)

評価項目の達成及び取り組み状況

重点目標	評価項目		達成及び取り組み状況	自己評価	委員会評価
1【幼稚園部】 遊びを中心とした生活の中で、豊かな心を育む体験ができる環境を整える。	1	教育	子ども達が自己発揮できていたか、何かに気づき工夫していたか、粘り強く取り組もうとしていたか、という視点も持ちながら記録をとり、保育を振り返りながら環境の構成がなされたか。	A	A
	2	安全管理	定期的に室内外の見回りを行い、子ども達がやりたいことを存分に楽しめる環境を整えることはできていたか。		
	3	保護者との連携	保育参加やおたより等を通して、子どもの遊びや生活の様子、遊びの中で経験していることを伝え、育ちを共有していくことで、幼稚園の教育を理解してもらうことができたか。		
	4	研修	「心が動いた」と思われる場面を読み取り、育ちを捉えることで、豊かな心を育むためのかわり、環境のあり方について学び実践に生かすことができたか。		
	5	地域との連携	三本柳さんさ保存会の方に来園していただき実際の演技を見たり、直接踊りを教えていただくことで、子ども達の興味に広がりがあったか。		
	今後の課題		毎日の記録や保育・研究を通して、子どもの育ちの捉えが深まり、子ども理解へとつながってきている。今後は、それを継続し日々の保育・環境へと活かしながら、育ちを保護者と様々な方法で共有できるようにし、園の教育を理解してもらえよう努めていきたい。		
2【なかよしルーム】 長時間過ごす子ども達が楽しく安心して過ごせるよう、幼稚園との情報共有を密にし、チーム保育を行う。	1	保育	なかよし保育専任の教諭が窓口となり、なかよし保育利用の子ども達の情報を幼稚園と共有することで、子ども達が楽しく安心して過ごすことができたか。	A	A
			季節ごとの製作遊びが楽しめる環境を準備し、苦手なところは時間をかけ保育者が丁寧にかかわることで、子ども達はやり遂げる喜びを味わうことができたか。	A	A
	2	安全管理	子ども達の体調や疲れ具合を見ながら活動の調整がなされていたか。また、ケガや事故のないように降園後は速やかに帰るように呼びかけができたか。	B	A
	3	保護者との連携	連絡の伝え忘れがないよう、またケガやトラブル等については丁寧に保護者に伝えることができたか。	A	A

	4	研修	月に1回のパートの先生を交えたミーティングの時間を、気になる子どもの様子を伝え合い、対応を考える時間にする事で、子ども理解につなげることができたか。	•かかわり方について話し合い、共通理解のもとに同じ方向性でかかわることを心がけてきたことで、子どもの姿に変化が見られ、子ども理解につなげることができた。	A	A
		今後の課題	<p>1 保育 なかよし保育担当者での情報共有はできていたが、関わり方についてクラス担任との話し合いはなかなかできなかった。昼寝時間などを活用し、より具体的な支援や関わりについて共有する機会をもっていきたい。</p> <p>2 安全管理 駐車場内を子どもだけで歩く、車のエンジンを切らずに駐車する、ゲートを開けたままにする行為など、駐車場内での危険について保護者への注意喚起を継続していきたい。普段の生活の中では、子どもたち自身が安全意識がもてるような声かけや約束事について繰り返し確認し、また、登降園時の約束事を掲示等で明確に示していきたい。</p>			
3【とことこ園】 1・2歳児の発達や個性を大事にしなが、一人ひとりが安心して自分らしく過ごせるようにする。	1	保育	一人ひとりのペースを大事にし、安心できるまで思いを受け入れながら、一人ひとりにあったかかわりがなされたか。	•一人ひとりの育ちや特徴を踏まえ、思いを言葉で表すことが難しい年齢であることを意識しながら、その都度、気持ちに寄り添い、様々な姿や思いを受け入れてきたことで、子どもたちは自分らしさを発揮し、安心して過ごす姿につながった。	A	A
	2	安全管理	一人ひとりの特徴を捉え、遊具などで遊ぶ時は、育ちにあった見守りやかかわりをし、ケガのないように過ごすことができたか。	•一人ひとりの発達段階や特徴を踏まえ、遊具で遊ぶ際には必要に応じた見守りや援助の仕方を調整し、安全に配慮したかかわりを行ったことで、大きなケガなく過ごすことができた。	A	A
	3	保護者との連携	お迎えの時間を有効に使い、その日の子どもの様子を伝えたり、家庭での様子を聞きながら、保護者と共に育ちの理解につなげることができたか。	•お迎えの時間を利用し、その日の子どもの様子や成長した姿を丁寧に伝えるとともに、家庭での様子にも耳を傾けることで、子どもの姿や育ちを保護者と共有し、日々のやり取りを通して信頼関係を深めることができた。	A	A
	4	研修	1・2歳児の発達や育ちを学ぶ動画を中心に視聴し、子どもの理解を深めることができたか。	•1・2歳児の発達段階や子どもの人権を大切にしている視点への理解を深め、学んだ内容を日々の保育に照らし合わせて振り返ることができた。	A	A
			満3歳児クラスと2歳児クラスの指導計画の照らし合わせを行い、経験に大きな違いがないかを考えながら、計画の見直しを行うことができたか。	•一人ひとりが安心して経験を積み重ねられるよう、共通して大切にしている経験やかかわりを共有することができた。計画の見直しの過程の中で、互いの保育のよさや大切にしている点を理解し合う機会となった。	A	A
		今後の課題	4 研修 満3歳児と2歳児が普段の保育の中で一緒に遊ぶ時間を作っていきたい。			
4【子育て支援】 幼稚園と家庭・地域が『共に子育てをする』という意識を共有しながら、親子が安心できる場を提供する。	1	未就園児親子教室	「つぼみ」「つぼみ+」合計45回を実施する中で、子育てについて気軽に話せる雰囲気も大切にし、お菓子を食べながら保育者とお喋りを楽しむ「おしゃべりおやつタイム」を実施することができたか。	•「つぼみ」「つぼみ+」を合計45回実施した。保護者からは「こうした場があることがありがたい」との声が聞かれ、親子が安心して過ごせる場となった。 •「おしゃべりおやつタイム」を合計3回実施した。子育てに関する話題だけでなく、たわいのない会話も自然に広がり、家庭・地域と園が「共に子育てをする」意識を共有する機会となった。	A	A
	2	一時預かり事業	「つぼみ」で保護者ともコミュニケーションをとり、子どもだけでなく保護者も安心して子どもを預けることのできる雰囲気作りがなされたか。	•「つぼみ」でのかかわりを通して保護者とのコミュニケーションを大切にし、子どもだけでなく保護者も安心して預けられる雰囲気づくりに努めることができた。	A	A
	3	園庭開放	遊びに来ている親子に保育者の方から声をかけるようにし、気軽に足を運べる雰囲気を作ることができたか。	•保育者から一人ひとりに声をかけ、保護者との関係づくりや子育てに関する会話につなげることができた。	A	A
			今後の課題	1 未就園児教室 3 園庭開放 ホームページでの発信内容が開催の有無と連絡事項のみとなっているため、活動の様子もアップしていきたい。		
5【その他】 幼稚園のお誕生日をお祝いするという気持ちを持ちながら、園児を中心とした創立50周年記念事業を行う。	1	記念式典	在園児親子、お世話になった方々に参加していただき、これまでの幼稚園の歴史を振り返りながら、みんなで記念の年を祝う事ができたか。	•子ども達と一緒に準備をしてきたことで、式典当日はお家の方やお客様をお迎えし、子ども達にとっても特別な日になったと思う。また、スライドショーはそれぞれの視点で歴史を振り返り、楽しんでもらえたと思う。	A	A
	2	記念誌の作成	50年の歴史を写真やエピソードで綴り、記録として残すための記念誌を作成することができたか。	•たくさんの写真で歴史を綴り1冊の記念誌にまとめることができた。各ご家庭で楽しみながら見て頂けたことは良かったと思う。	A	A
	3	卒園児・地域との交流	卒園児（小学生）と在園児が「おめでとう」の気持ちを込めて作品を作り、式典会場を飾ることができたか。	•子ども達が楽しみながら参加し、手作りのあたたかな雰囲気でも飾ることができたと思う。	A	A
			地域に伝わる「三本柳さんさ」に触れることで、子ども達はさんさ踊りに親しみを持ち、楽しんで取り組むことができたか。	•本物の三本柳さんさ踊りに触れ、憧れの気持ちを持ちながら「自分もやってみよう」という気持ちで取り組み、楽しんでいった。	A	A

評価(A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

学校関係者評価委員会の評価	<p>※今回の資料については、テンプレートとしてかなり整理され、以前より見やすくなった印象である。</p> <p>【幼稚園部】 ◎遊びを中心とした生活の中で、豊かな心を育む体験ができる環境を整える。 •保護者との連携においては、現在はデジタルとアナログの過渡期でもあるため、紙の連絡ノートの良さも大切にしながら、情報を迅速に正確に伝える手段としてアプリの活用が有効であり、今後はより一層その活用が重要になってくる。 •保育記録はおがスマアプリを活用して入力し、職員間で共有している。個人記録については、それぞれが必要に応じて記録している状況である。今後は、保育記録と個人記録の役割を整理しながら記録方法を工夫し、保育の振り返りに活かすとともに、教職員の業務の軽減につながるような活用の在り方を検討していくことが次年度の課題である。</p> <p>【とことこ園】 ◎1・2歳児の発達や個性を大事にしなが、一人ひとりが安心して自分らしく過ごせるようにする。 •保育部と幼稚園部それぞれの保育・教育内容で大切にしている点を共有するとともに、園内において2歳児から3歳児への育ちの緩やかな接続を意識し、職員間で理解を深めていくことが次年度の課題である。</p>
---------------	--